

しろね大風と歴史の館 内部を紹介

世界の凧が勢ぞろい 各国から1、500点

来年度の完成を目指して、着々と工事が進められる「しろね大風と歴史の館」。八月には、風洞実験室の設置工事や館内を装飾する展示工事が発注され、博物館として、科学館として一層期待が高まっています。

世界中の凧、1、500点を収蔵

迫力満点、立体ビデオ映像

「しろね大風と歴史の館」には、白根はもとより国内外から収集した、たくさん凧が展示されます。そのうちのいくつかを「あなたも凧博士」のコーナーで紹介していますが、これはほんの一部に過ぎません。現在、凧収集委員が、珍しい凧を求めて、国内はもちろん世界各国を飛び回っています。これまで約千二百点の凧を集めました。中国、インドネシア、タイ、インドなどのアジアの凧。アメリカ、イギリス、フランス、オーストラリアなどの西洋風。南米ブラジルのアマゾン風の凧まであります。日本古来の四角い形のもの、モダンで幾何学的な形をしたものなど、いずれも珍品ばかりです。



世界中から集められた数々の凧

収集活動は今後も続けられ、開館までに、約千五百点の凧がそろい見込みです。

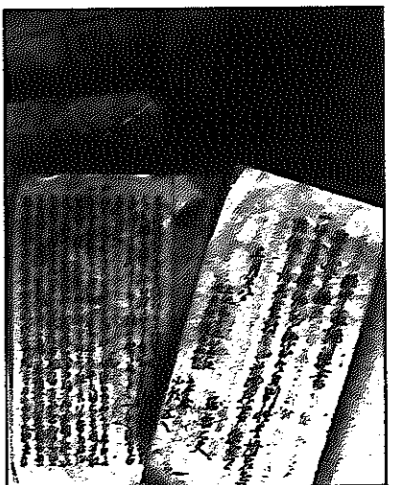
また、館内の映像室では立体ビデオが見られます。映像室は五十人を収容でき、劇場のように階段式に席が配置されます。この席に座って、専用の眼鏡を掛けて見ると、百二十センチの大型スクリーンから、登場人物などが飛び出してきて、迫力満点。特に、凧合戦を紹介した「白根の大風合戦」は、目前で合戦が展開されているかと錯覚するほど。臨場感いっぱいです。

凧揚げが楽しめる

「風洞実験室」

同館で目玉となるのは、凧揚げができる「風洞実験室」。高さ、幅が各三・五メートル、長さが九・五メートルの部屋の中で、人工的に風を吹かせ、凧揚げを楽しんだり、凧に関する科学的な実験を行ったりするものです。風は、高さ、幅各二・四メートルの大型送風機で起こします。風速一・五メートルから五メートルまで段階的な調節が可能です。

凧揚げ専用の風洞実験室は、世界でも例がありません。全く凧揚げの経験のない人から自分で凧を作るマニアまで、存分に楽しんでもらえるものと期待が寄せられています。実験室の隣は、実際に凧を作る「凧工房」。凧を作る過程が見られるほか、インストラクターの指導を受けながら、自分の手で凧を作ることも



歴史を語る 古文書の数々

できます。作った凧は、風洞実験室で揚げるので、面白いです。面白さは倍増するでしょう。

風の博物館は日本国内にも数カ所ありますが、美術的にも科学的にもこれほど内容が充実した博物館はありません。展示内容・規模からして、世界一の凧の博物館となるでしょう。

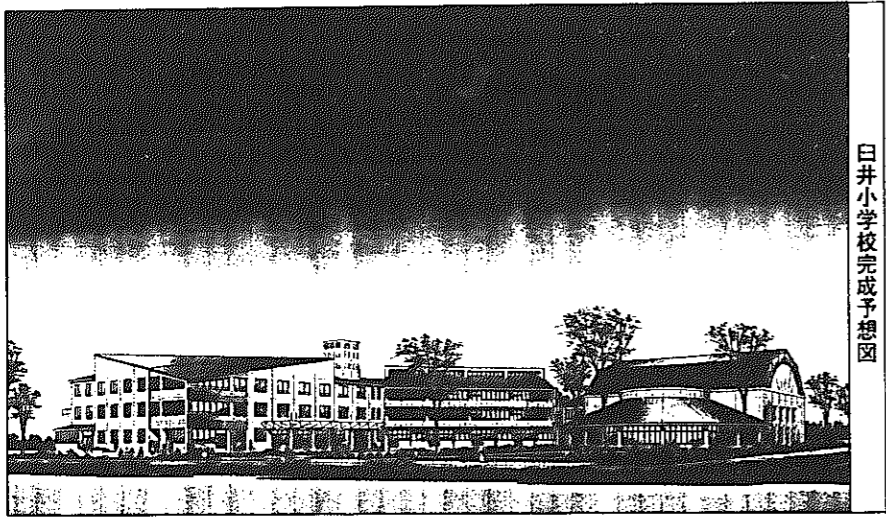
歴史展示コーナーには、水書の資料がいっぱい

館内には、白根の歴史に関する資料を集めた歴史展示コーナーもあります。ここでは写真、絵などにより、白根の生い立ちから現在の産業の発展に至るまでが、一目で分かるようになります。

特に水害に関する資料は、かなり多く集められており、川に囲まれた白根で、住民がいかにして水と闘い、災害に打ち勝ってきたかが克明に分かります。町の模型や古文書、出土品なども置かれ、白根の歴史を知るには、欠かせない場所となるでしょう。

白井小学校・白井保育園

いよいよ着工 完成へ高まる期待



白井小学校完成予想図

白井小学校と白井保育園の建設工事が始まりました。工事に先立ち、八月二十四日には小学校、九月七日には保育園の安全祈願祭がそれぞれ行われ、工事の無事を祈りました。

児童間の交流に配慮した

白井小学校

平成七年春に開校する白井小学校。現在の白井小学校と戸石小学校が統合されます。総工費は十億二千七百八十五万円。

白井小学校、戸石小学校は、ともに明治初期に創立された古い歴史と伝統を持つ学校です。しかし児童数の減少や校舎の老朽化などが進み、教育環境が悪化。これらの解消が大きな課題となりました。

こうした中で、元年六月に戸石小学校が火災のため全焼。地区では、一気に統合に向けた気運が高まりました。

二年十月には両地区民代表による建設促進委員会が発足。市との協議を重ねながら、両校の中間点である堀掛に建設地を決定。今年八月に着

工となりました。

新しい校舎は鉄筋コンクリート造り三階建て、延面積は三千五百八十平方メートル。十二の普通教室と六つの特別教室が設けられます。

特徴的なのは、各階に多目的スペースがあること。これは児童間の交流を、学級だけでなく学年を通じて広めようというもの。特に二・三階は、廊下が多目的スペースとなっていて、普通教室をつないでいます。また、低学年の各教室内には、アルコーブと呼ばれるカーペットを敷いた空間があり、遊び、触れ合いの場として利用されます。

統合校は地区民の長年の願いでした。完成に向けて住民の期待が高まっています。

木のぬくもりが

感じられる白井保育園

新白井保育園は、現在の白井保育園と季節保育所の西笠巻保育所、朝捲保育所を統合し、旧県道白根安田線沿いの赤浜地内に建設。来年四月の開園へ向け、総事業費一億八千八百万円をかけて建設されます。

現在の白井保育園は、建築されてから三十年が経過。老朽化がかなり進行していました。西笠巻・朝捲の両保育所は、保育担当者の不足、運営費の増大など施設の維持に苦慮していました。また、どちらの保育所も、乳児、未満児を受け入れる施設がなく、乳児らは、白根の中央保育園まで通っている状態。住民から新築

を望む声が高まっています。

折しも国道460号白井バイパスが白井保育園上を通過することが決定。今年度中には移転をしなければならなくなりました。このため市では八月に工事を発注。現在、急ピッチで工事が進められています。

新しい保育園は、建物の延床面積が七百九十平方メートル。これまでの約三倍近い広さになります。これにより定員も六十人から百人に増えます。園庭も広がり、これまで学校のグラウンドを借りて行っていた子供たちの運動会もできるようになります。

建物は木造平屋建。内装全体に木目が見えるよう配慮し、木のぬくもりを感じられるようにします。遊戯室は高さ十一・五メートルと天井を高くして、ゆとりある空間とします。

また、乳児ほふく室を新設。乳児、未満児の保育ができるようになります。



くわ入れする竹内市長（白井保育園安全祈願祭）